

## 第2章 景観特性・景観構造

### 2.1 景観特性について

三浦市の景観は、<sup>かいしょく</sup>海食と<sup>りゅうき</sup>隆起によって形成された<sup>だんきゅうめん</sup>段丘面（台地）やそこに生育する植生などの自然的な景観、造成された農地や密集した宅地や商業地、道路や漁港などの人工的な景観、そして、鎮守の森をもった神社仏閣や祭礼・<sup>さいし</sup>祭祀など自然的な景観と人工的な景観が一体となった景観によって、形成されています。

これらの景観要素は、さまざまに組み合わせられ、一定の特性をもちながら市民に認識されており、三浦市の貴重な財産である景観資源ということが出来ます。

### 2.2 景観特性の整理

(1) 三浦市の景観特性を、以下のとおり特徴のある景のまとまりから整理します。

#### まちと商いの景

三崎漁港の周辺に密集した古くからの住宅地と近年整備された住宅団地の景観。  
また、市域北部の駅前周辺などの景観と市域南部の商店街などの景観。

#### 農と里の景

農地と隣接した農村集落、さらにそれを取り囲む<sup>だんきゅうがい</sup>段丘崖の植生が構成する景観。台地上の農地や造成された農地を中心とした景観は、本市を特徴付ける典型的な景観の一つといえる。

#### 漁業と海浜の景

三浦市は、歴史的に沿岸漁業が盛んであり、三崎漁港のような遠洋漁業基地のほか、観光と一体となった中小規模の漁港も整備されている。また、市域の東、南、西の三方が海に面しており、砂浜、岩場、人工的な海浜など多様な海浜景観を有している。

#### 自然の景

三浦市には樹林地と干潟や湿地が一体となった豊かな自然景観拠点が残っている。また、海浜部には、希少な植生、動物の生息環境もあり、三浦市の特徴的な景観となっている。これらの自然景観を支える重要なネットワークの一つが、段丘崖と<sup>やと</sup>谷戸の谷を中心に発達している植生帯である。

#### 歴史文化の景

三浦市の歴史は古く、<sup>かいしょくどう</sup>海食洞などには弥生期以前から人々が生活していた<sup>こんせき</sup>痕跡が見つかっている。その後、平安期には、現在でも多くの市民が訪れる海南神社が建立された。その後鎌倉期にも鎌倉将軍の別荘が建設されるなど、歴史に裏付けられた文化を持っている。

(2) 三浦市の景観特性を、物理的に構成している「面」・「線」・「点」の要素から整理します。

- ・ **「面の景」**: 面的な広がりを持って景観を構成している要素であり、畑地、住宅地、商業地などが該当します。
- ・ **「線の景」**: 線的な延長を持って景観を構成している要素であり、道路や鉄道、水路や海岸線などが該当します。
- ・ **「点の景」**: 点としての位置づけができる景観を構成している要素であり、大きな木(大<sup>だい</sup><sub>けい</sub>木)、大規模な建築物などが該当します。

(3) 三浦市の景観特性を、5つの特徴のある景と、「面」・「線」・「点」の要素を以下のとおり整理します。

	面の景	線の景	点の景
<b>まちと商いの景</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸部の密集住宅地</li> <li>新興住宅団地</li> <li>駅前周辺</li> <li>三崎漁港周辺商店街</li> <li>城ヶ島商店街</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要な道路</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護樹木</li> <li>眺望点</li> </ul>
<b>農と里の景</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段丘面の農地</li> <li>新規造成農地</li> <li>農村集落</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護樹木</li> <li>眺望点</li> </ul>
<b>漁業と海浜の景</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三崎漁港周辺</li> <li>中小漁港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な海浜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>灯台</li> <li>眺望点</li> </ul>
<b>自然の景</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟や湿地</li> <li>まとまりのある樹林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段丘崖の連続植生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少な動植物</li> <li>地層</li> <li>保護樹木</li> <li>眺望点</li> </ul>
<b>歴史文化の景</b>			<ul style="list-style-type: none"> <li>神社仏閣</li> <li>祭礼・祭祀</li> <li>生活習慣</li> <li>各種催事</li> <li>遺跡・史跡</li> </ul>

## まちと商いの景

### 面の景

#### 海岸部の密集住宅地

海岸部の小規模な段丘面上に、多くの民家が密集して建築されている。段丘面と段丘面は、急峻な坂の小路で連絡されている。



#### 新興住宅団地

近年整備された住宅団地の多くは、従来の住宅地に比較し、幅広な街区と道路を備え、建材も色調も異なった住宅団地としての新たな景観を形成している。



#### 駅前周辺

京浜急行電鉄の三浦海岸駅は、11,800人/日（H25年度）余りの乗降客数があり、本市の主要な交通拠点となっている。駅前には商店街が形成されており、都市化が進んでいる。三崎口駅は、18,300人/日（H25年度）余りの乗降客数があり、京浜急行電鉄の終着駅である。駅前には、わずかに商店、銀行等がある。



#### 三崎漁港周辺商店街

三崎漁港周辺の商店街は、三浦市でも最も古くから発達した商店街であり、現在でも三浦市の商業の拠点であるが、近年の厳しい経済環境により閉店を余儀なくされている店舗もある。



#### 城ヶ島商店街

観光客を対象とした城ヶ島の商店街もやはり本市の商業の拠点であり、休日には多くの観光客で賑わっている。



## 線の景

### 主要な道路

交通量の多い国道 134 号を中心に空きスペースを利用した野立ての看板などが設置されている。



## 点の景

### 保護樹木

三浦市内には、様々な樹種の大径木が保護樹木の指定を受けている。市街地の保護樹木は独立して点在し、まちなかのみどりの拠点として、シンボル景観を形成している。



### 眺望点

本瑞寺をはじめ、崖の上に寺社が点在する三崎地区は、市街地越しに三崎漁港や城ヶ島大橋を望む眺望点が点在する。細い街路、急な坂道、石階段や下町の家並みの表情、また三崎漁港や城ヶ島大橋が織りなす眺望が、景観資源となっている。



## 農と里の景

### 面の景

#### 段丘面の農地

谷戸の埋め立てではなく、従来の台地を活用して形成された農地。農地利用が困難な周辺の急斜面には、植生が残っている。



谷戸を埋め立てて造成された大規模な農地。露地野菜の一大拠点となっている。

#### 新規造成農地

三浦市では、現在も埋め立てによる新規の農地の造成が進んでいる。



#### 農村集落

農地の周囲に形成された伝統的な集落。  
よろいしたみいだ  
鎧下見板、瓦葺き、屋敷林、生垣などがみられ、地域景観に馴染む独特の様式が見受けられる。



### 点の景

#### 保護樹木

三浦市内には、様々な樹種の大径木が保護樹木の指定を受けている。農地や農村の保護樹木の一部は、周辺の樹林（植生）、鎮守の森などと連携しながら、緑のネットワークを形成している。



#### 眺望点

三戸の造成農地は、景観上、主要な眺望点となっている。大規模造成された農地と相模湾、伊豆半島を望む北から南までの200度の景観が眺望できる景観資源となっている。



## 漁業と海浜の景

### 面の景

#### 三崎漁港周辺

三崎漁港は、マグロなどの遠洋漁業基地であると共に、観光施設も集積した景観となっている。



#### 中小漁港

中小の漁港は、三浦市の多様な海浜（入り江、湾）を利用して整備されている。沿岸漁業を中心した施設と同時に、ヨットなど海洋レジャーのための施設も整備されている。



### 線の景

#### 多様な海浜

三浦市の多様な海岸線。  
三浦海岸（砂浜）、黒崎の鼻（岩場、かいしょくだい海食台、ふたまる二町谷の埋立地（人工）など。



### 点の景

#### 灯台

三方を海に囲まれた三浦市には、歴史的にも貴重な灯台がいくつか存在する。三浦市で最も古い城ヶ島灯台は、明治期に全国5番目の洋式灯台となった。



#### 眺望点

城ヶ島大橋は、三浦半島から城ヶ島にわたる唯一の陸路であり、昭和32年（1957年）に着工、昭和35年（1960年）4月に開通した。全長575m、海面からの高さ16~23.5mを誇る長大橋であり、三浦市のランドマーク（景観上の目印）となっている。



## 自然の景

### 面の景

#### 干潟や湿地

海浜部と樹林地が一体となった干潟や湿地が発達しており、多様な動植物を育む豊かな自然景観の拠点となっている。



#### まとまりのある樹林

自然景観の拠点として、まとまった樹林地が存在している。植生帯と緑のネットワークを形成しながら、三浦市の自然景観を保全している。



### 線の景

#### 段丘崖の連続植生

土地が隆起し、段丘面が形成される際、下位の段丘と上位の段丘の間に急斜面の段丘崖が形成された。また、谷戸など利用困難な急傾斜地には、連続した植生帯が形成されている。



## 点の景

### 希少な動植物

ハマユウは、三浦半島南部が自生の北限といわれ、砂地に生える大型の常緑多年生草本である。市の花として、マンホール等にも描かれており、市民にもなじみの深いものとなっている。ムラサキセンブリは、神奈川県レッドデータブック絶滅危惧の希少種である。



←ハマユウ



ムラサキセンブリ→

### 地層

三浦市内には文化財に指定されている諸磯の隆起海岸や海外のスランプ構造、漣痕（波調層）の他、城ヶ島の海岸など沿岸部に断層、褶曲など様々な地層を見ることができる。



海外のスランプ構造

### 保護樹木

三浦市内には、様々な樹種の大径木が保護樹木の指定を受けている。これらの一部は、周辺の樹林（植生）、鎮守の森などと連携しながら、緑のネットワークを形成している。



延寿寺の  
イチヨウ

### 眺望点

県立城ヶ島公園には、二つの展望台が設置されている。



城ヶ島公園第1展望台からの眺望

天候が良ければ、北には武山を望み、東には房総半島、南には伊豆大島、西には伊豆半島、箱根、富士山と360度の景観が眺望できる景観資源であるとともに、観光資源にもなっている。



## 歴史文化の景

### 点の景

#### 神社仏閣

三浦市には豊かな歴史を背景として多数の神社仏閣が残っている。これらは建造物としても重要なものであり、歴史的景観を形成している。



海南神社

#### 祭礼・祭祀

神への奉納として、独特の祭礼・祭祀が現在に至るまで行われており、文化的景観となっている。



行徳獅子

#### 生活習慣

冬になるとたくあんをつくるために大根が干されている風景は、平らな地形と乾燥した季節風などを利用した生活上の知恵が生み出す景観となっている。



三浦海岸での大根干し

#### 各種催事

観光業は、三浦市の重要な産業であり、観光客を対象とした各種のイベントが行われている。



三浦海岸花火大会

#### 遺跡・史跡

赤坂遺跡や**びしゃちんどうくつやよいじだいじゅうきょしぐん** 毘沙門洞窟弥生時代住居址群は、弥生期の人々の暮らしぶりを知るうえで貴重な史跡となっている。



発掘当時の赤坂遺跡



### まちと商いの景



### 農と里の景



### 漁業と海浜の景



### 自然の景



### 歴史文化の景

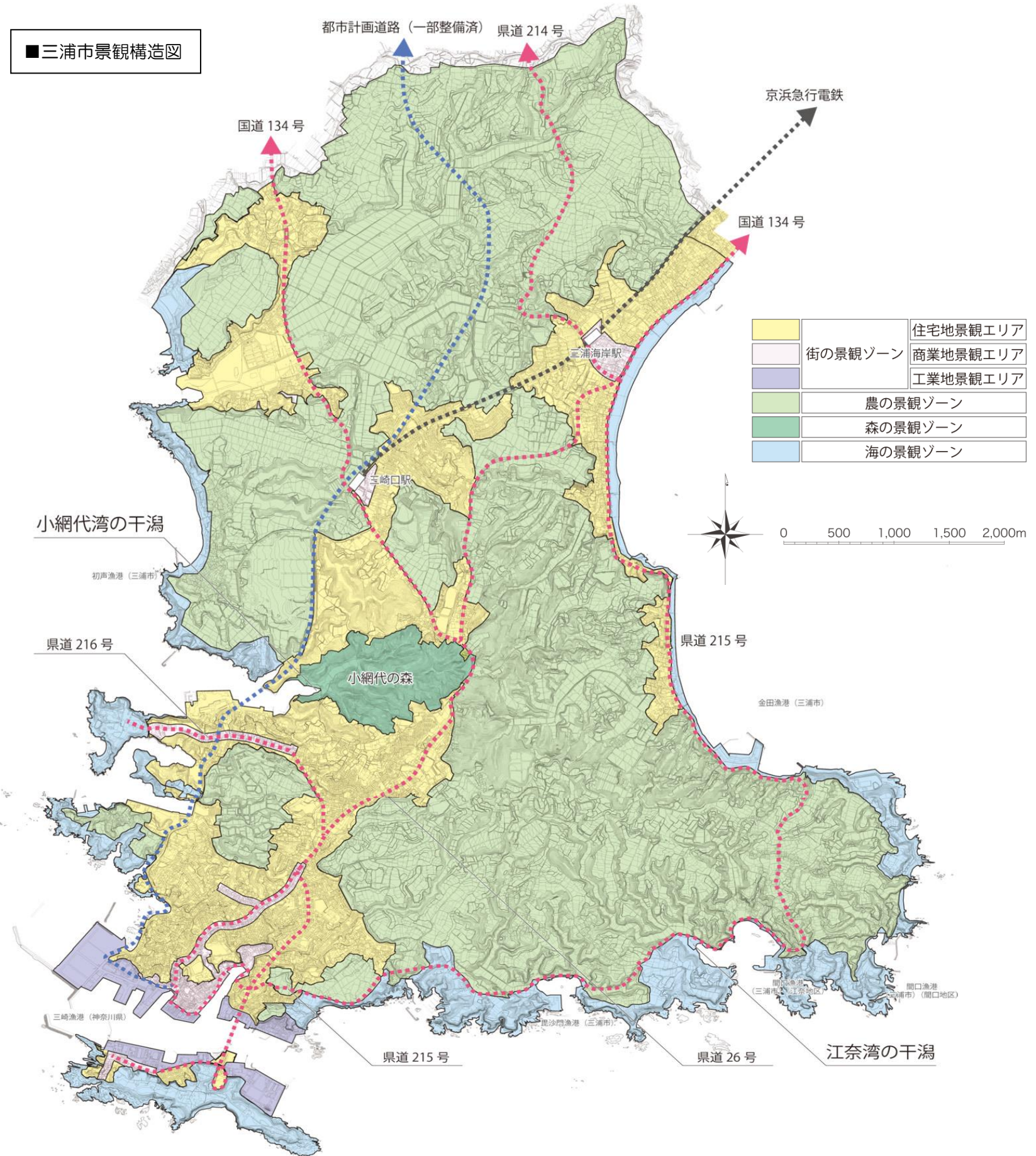
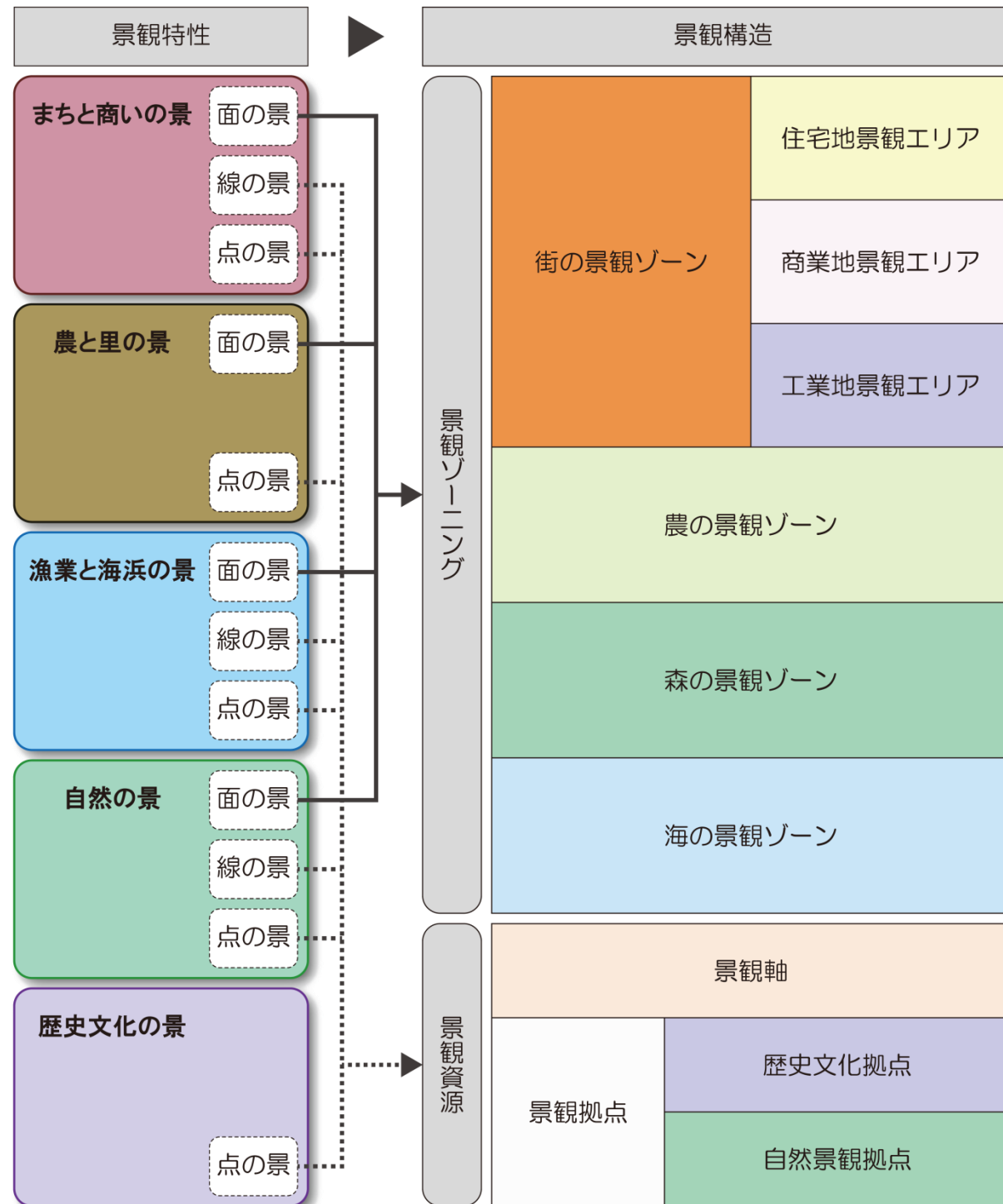




### 2.3 景観構造の基本的な考え方

整理した景観特性から、以下のとおり、景観構造を示します。

- 面の景については、特徴のあるまとまりから、4つの景観ゾーンと3つの景観エリアに区分した景観ゾーニングとします。
- 線の景と点の景については、景観資源として位置づけています。





## 2.4 景観ゾーニング・景観資源の状況

### 景観ゾーニング（面の景）

#### 街の景観ゾーン

##### 住宅地景観エリア

市域の南東部分を除く全域に広がるエリアで、用途地域（市街化区域）の第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域のエリアにあたる。

住宅密集地を含む既成市街地から、土地区画整理事業による新市街地、また民間大規模開発による星和住宅、京急ニュータウン等を含む区域。

新旧の様々な住宅、街路、段丘面の宅地の土留めや石積み、社寺林や斜面林など多様な景観構成要素で形成されている。



京急ニュータウン



白石町

##### 商業地景観エリア

三浦海岸駅周辺、三崎口駅周辺、三崎下町や城ヶ島の一部また、県道 26 号沿線などに業務・商業地域が形成されている。



三崎4丁目

##### 工業地景観エリア

三崎下町の一部とその対岸の城ヶ島に広がる水産加工業・造船業等を中心とした工業地域。三崎下町の観光地と近接している。



晴海町

#### 農の景観ゾーン

市全域に位置し、面積的にも域を大きく占めるゾーン。段丘上に形成された台地畑と三浦市に古くからある農村等の集落を対象とした区域。

広々とした農地、空、海、房総半島、富士山など、良好な景観、段丘崖や農地端部の樹林地などの緑のネットワークなどが、主要な景観構成要素。

また伝統的な農村集落には、鎧下見板、瓦葺き、屋敷林（生垣）などの特徴的な様式が残っている。



岩堂山からの景観



上宮田の集落

#### 森の景観ゾーン

小網代の森とその樹林地を対象とした区域。三浦市の自然環境の核となる拠点。



小網代の森

#### 海の景観ゾーン

三浦市を取り巻く東、南、西の三方の海岸線のうち、自然の海浜及び工業地景観を除く人工の海浜からなる。



黒崎の鼻

### 景観資源（点の景）

#### 歴史文化拠点

##### 神社仏閣

海南神社など神社仏閣が市内に点在しており歴史的な景観を形成している。また、神社仏閣の祭礼・祭祀が催され、市民生活に大きな影響を与えている。



海南神社

##### 生活習慣

海岸などで行われる大根の乾燥作業は、本市の地形、気象、特産物を巧みに組み合わせたものであり、特徴的な景観といえる。



三浦海岸での大根干し

##### 遺跡・史跡

市内には毘沙門洞窟弥生時代住居址群などの史跡があり、弥生期の南関東屈指の大集落跡である赤坂遺跡は、歴史公園としての整備が期待されている。



発掘当時の赤坂遺跡

#### 自然景観拠点

##### 希少な動植物

小網代の森は、樹林地と干潟や湿地が一体となった森であり、希少な動植物の宝庫であり、自然景観拠点といえる。



小網代の森

##### 地層

市内には国や県から文化財に指定されている地層があり、沿岸部に見られる地層は変化に富んだ海岸の景観に特徴を与えている。



海外のスランブ構造

##### 保護樹木

保護樹木として指定を受けている樹木。



二崎小学校のクロマツ

### 景観資源（線の景）

#### 景観軸

##### 国道

交通量が多く、三浦市北部の代表的な道路であり、街路網の骨格を形成している。交通量の多さによる広告効果から、一部には野立て看板なども見られる。



国道 134 号



国道 134 号

##### 県道

三浦市の南部では、県道 26 号、215 号が主要な道路であり、街路網の骨格を形成している。



県道 215 号  
（宮川大橋付近）

##### 緑のネットワーク（連続した植生）

周囲を段丘崖の植生が囲み、緑のネットワークを形成している。（松輪の写真）

土地利用困難な急傾斜地に植生が残り、緑のネットワークを形成している。（下宮田の斜面林の写真）



松輪



下宮田

